

草の根での交流事業について

実行委員会では、日タイ修好120周年を幅広く慶祝し、両国の交流・相互理解を促進するために各種団体との緊密な協力を進めてきました。具体的には、これらの団体が実施する両国間の友好関係の強化に資する事業を記念事業に認定し、修好120周年事業の全体としての盛り上がりを図るとともに、助成申請のあった団体が実施する交流事業に対して、協力企業からの募金を原資とした資金協力を行いました。最終的に記念事業に認定された事業は総数で340件にも上り、このうち助成を受けた団体は71件に達しました。これらの認定を受けた各種事業の分野は、今日の日タイ両国の幅広い交流を反映して、芸術・文化、青少年交流、学術、観光等多岐にわたり、各団体からの報告を合計すると、日タイ両国において約180万人もの多数の市民が修好120周年の記念事業に参加したことになります。

空手国際交流事業 TSEI SPIRIT THAI 2007

主催 土屋スポーツ
 実施場所 ランカムヘン地区、バンコク
 実施時期 2007年11月27日～11月30日

空手を通しての、子供達の健全なる育成を目的としている。
 日本からタイの空手道場に2チーム10名を派遣し指導、演武などをおこなった。



ボーイスカウト運動100周年・旭川地区60周年記念
 第一回旭川地区ベンチャースカウト海外派遣
 主催 ボーイスカウト北海道連盟旭川地区
 実施場所 バンコク
 実施時期 2007年1月6日～13日

ボーイスカウト8名がCO2削減の環境問題について、現地のスカウトとの話し合いやホームステイ、遺跡見学をとおして交流を深めた。参加したメンバーからはイベント当日だけではなく、事前の環境問題調査でも、様々な対策を知ることができたとの感想を得る。
 北海道新聞 2006年12月29日に関連記事掲載



シンポジウム「米と魚」ポスター



「米と魚」ータイと日本の食文化比較ー
 主催 財団法人 味の素食文化センター
 実施場所 バンコク
 実施時期 2007年11月30日

東京・タイロイカトン祭2007

主催 国際タイ舞踏文化交流会実行委員会
 実施場所 東京 お台場
 実施時期 2007年10月27日～28日

タイのロイカトン祭を紹介し、タイと日本の人々が協力イベントをすることにより草の根の絆を深める。
 タイの古典舞踏や阿波踊りなどが披露された。

イベントポスター



米と魚に象徴される食体系を持つタイと日本。同じ食材でも国により大きく異なる食文化について両国の食のオピニオンリーダーが講演とパネルディスカッションを行った。



右より 在タイ日本国大使館小林大使夫妻、
コプチャイ・セントラル社長、東京芸術大学学長宮田亮平先生ご夫妻



● 「日タイ大正琴合同演奏会」
 主催 羽村大正琴カトリック会・大正琴ミニカトリック会 in BKK
 実施場所 バンコク セントラル・ワールド・トレードセンター
 実施時期 2007年9月22日

日本側9名、タイ側9名の計18名で演奏。「海を越えて一つになった合同演奏会」をイメージし、全員海の色であるブルーの衣装で臨んだ。



横田市の「そろばん教育」



● 「横田・ロイエット市」第4回親善文化交流
 主催 奥出雲横田タイクラブ
 実施場所 島根県
 実施時期 2007年8月3日～4日

そろばん教育を通じて文化・人的交流を行ってきた奥出雲町横田とロイエット市。
 (「そろばん製造」は奥出雲の地場産業) 今回、その交流を広く発展させるため、
 第4回親善文化交流が行われた。
 満員の会場では、ロイエットタイ舞踊団と町内の小中学生を中心としたプラスバンドの演奏、和太鼓、子供民謡会、空手スポーツ少年団、よさこい連などが競演され、拍手と歓声に包まれた。またホームステイを行い、交流をさらに深めた。「奥出雲市とロイエット市の交流の絆を再認識した」との声が聞かれ、大成功をおさめた。



日本で発行された本とタイ語で翻訳され現地に寄付された本

津波漫画“激濤”タイ語版の寄贈

主催 ねぎぼうずタイランド
 実施場所 タイ各地
 実施時期 2007年12月26日

日本での津波被災の漫画をタイ語に翻訳して発行。インド洋大津波により被害を受けたタイ南部の人々に無償配布し、津波被害への啓蒙を図った。ねぎぼうずタイランドは、漫画家 矢口高雄氏が日本国内の津波被災者の体験談を漫画化した作品「激濤(げきとう)」をタイ語に翻訳し、タイ内務省防災局や2004年12月のインド洋津波の被災地であるタイ南部アンダマン海沿いの6県(ラン、バンガー、ブーケット、クラビー、トラン、サトゥーン)にある学校や図書館に寄贈しました。児童達が、同漫画を食い入るように読んでいたのが印象的でした。



タイ代表チームの招待、交流

主催 財団法人 全日本剣道道場連盟
 実施場所 日本武道館他
 実施時期 2007年7月21日～7月28日

全国から選ばれた、約5000名の少年剣士による大会にタイから少年剣士を招待し、交流を深めた。東競武道館・練成会館に所属する少年剣士との試合、稽古、および交流事業を行う。開会式で15000人の選手と家族、観客に対し、日タイ修好120周年の慶事であることを紹介したほか、複数の会場で日タイの友好関係を紹介するなど、各地とも大盛況でおこなわれた。

ブーケット少年剣道クラブを招待し、試合・稽古と一緒にいった。また、バーベキューをかこむなどの親睦会を通し、相互の理解を深める。剣道を通じた日タイ青少年活動の絆を、広く紹介した。





- タイへ渡った愛媛人 政尾藤吉—タイ近代法整備の功労者—
 主催 愛媛県生涯学習センター
 開催場所 愛媛県
 開催時期 2007年11月24日～2008年3月9日

明治・大正期の法律家・外交官で、タイ王国の政府法律顧問、特命全権公使を歴任するなど、タイで「刑・民法の父」として称えられた政尾藤吉(愛媛県大洲市出身、1870～1921)を顕彰し、県民に生き方を学ぶ機会を提供し、生涯学習風土の醸成を図る。

朝日新聞、愛媛新聞などでとりあげられた。



- 日本タイ子供交流 タイこども舞踊団招聘事業
 主催 NPO法人 日本アジア・芸術協会
 実施場所 東京 中央区立泰明小学校
 実施時期 2007年11月13日

タイの小学生を日本に招き、給食などを一緒に食べたり、タイの踊りの紹介と、日本の子供達と一緒に踊りの練習などを行う。日本の子供達からは「とっても美しかった」、「舞踏を習ってみて、以外と難しかった」、「タイに行ってみたみたい」などの感想が寄せられた。

タイ事典

主催 日本タイ学会
 実施場所 日本
 実施時期 2007年7月7日～2009年4月

刊行企画している『タイ事典』は、研究者のみならず、タイに関心を持つ一般の方々を対象としたタイ理解を促進するための事典である。タイの歴史、政治、経済、社会、産業、運輸、教育、観光、宗教、文化、環境、人物、地名、国際関係などの分野から重要事項を約800項目選出し、それぞれの項目に解説を加える。また、憲法変遷、行政組織、経済関係統計などのデータを表や図にまとめ、巻末に付録として収める。

この種の事典としては、『タイの事典』(同朋社、1993年)があり、タイ進出日系企業関係者を含めて、現在でも需要が多い。ただ、残念なことに出版元が倒産し再版の見込みがないうえに、内容の古さが目立ってきている。

今回は、そうした事情を踏まえて企画された。つまり、ここ20年程度の間のタイのあらゆる分野にわたって進行している大きな変革を反映させた事典の作成である。たとえば、仏教や教育制度の大変革、さらには新しく生まれてきたポップカルチャーなども取り入れなければならない。幸いなことに、日本における「タイ研究」も、この間著しく増加してきた若手研究者を中心にずいぶん発展してきており、その成果を「新しいタイ論」としてこの事典に生かしたいと考えている。1999年に発足して以来、日本におけるタイ研究者の中心的存在として着実に歩んでいる「日本タイ学会」では、その総力を上げてこの事業に取り組んでいる。

現在、項目(約800)および執筆者(約140名)の選定作業をほぼ終了した。原稿締め切りを予定している今秋以降精力的に編集作業を行ない、日本タイ学会の創立10周年を迎える2009年の春に出版の予定である。

修好120周年を迎え、日タイ交流は、ただ単に経済関係にとどまらず、社会や文化など多方面に及んでいる。そうした交流を支える基礎的条件の一つとしてタイ国理解があるとすれば、本事典が大きく貢献することは間違いないであろう。



● 微笑みの交流・未来へのかけ橋(日タイの中高生・「心の絆」交流事業)
 主催 フレンド・オブ・アジア
 実施場所 北海道
 実施時期 2007年3月16日～3月29日

タイから中高生を招待しホームステイをしながら地元の中学や官公庁訪問、日本の中高生とスキー体験や舞踏など交流を深める。参加したタイ人の子供から「雪を見るのは初めての経験であり嬉しかったし食べてもおいしかった!」との感想を得る。
 北海道新聞 2007年2月23日に関連記事掲載



● 絵染め／日本とタイのシルク・コラボレーション
 主催 絵染めインターナショナル／日本絵染め協会
 実施場所 バンコク市内
 実施時期 2007年10月17日

日本とタイのシルクを用いた 絵染めの展示、講習会を通して、その魅力を紹介し、シルクと絵染めを両国の架け橋とする。上記の他にもタイの子供達へのぬり染め教室などを開催した。



● 地球の森プロジェクトinタイ
 主催 地球環境平和財団
 実施場所 タイ
 実施時期 2007年11月～2011年12月

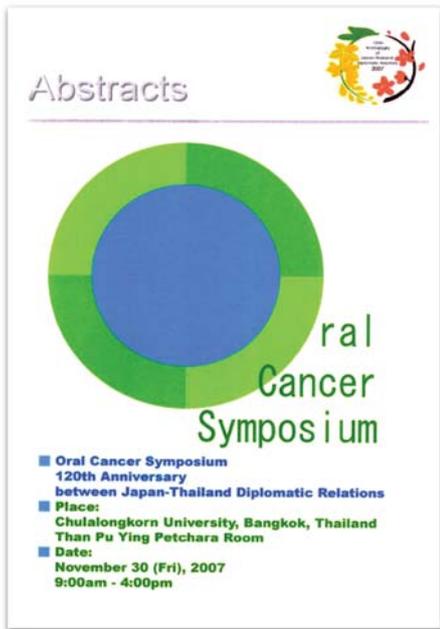
地球環境平和財団が、国連環境計画アジア太平洋地域事務所、タイ王国天然資源環境省、およびシリントーン王女国際環境公園財団との共催で行う植樹プロジェクト。タイのみならず日本国内でも広く参加・協力を呼び掛け、タイの豊かな森づくりを推進していく。現時点ではレセプションのみを実施。レセプションの様子はテレビニュースを含む各メディアでも取り上げられた。また、オフィシャルポスターをタイ全国に掲出している事から、今後も当事業に対するタイ国内での認知度がさらに大きく向上していくと思われる。

日タイ口腔癌シンポジウム その基礎と臨床の最前線

主催 東京医科歯科大学大学院 小松教授
 実施場所 チュラロンコン大学
 実施時期 2007年11月30日

口腔癌に関する最新の基礎研究成果ならびに臨床研究成果を共有することにより、日本およびタイ両国における口腔癌の予防、発癌機構の解明、ならびに診断、治療の進歩発展に寄与する。

シンポジウムパンフレット



タイ文化ふれあい交流

主催 国際タイ舞踏文化交流会実行委員会
 実施場所 関東
 実施時期 2007年6月1日～7月31日

日タイの修好の未来を担う日本の学生に、一流の講師による指導で、タイの舞踏を体験してもらう。また、タイの民族衣装試着などもおこなわれ、学生達の良い思い出となる。



三菱アジア子ども絵日記フェスタ表彰式・アジア・スタディ・ツアーおよび入賞作品展示会

主催 三菱広報委員会
 実施場所 バンコク
 実施時期 2007年7月末～8月

アジアの22カ国から応募された絵日記の中から選ばれた36作品を展示。選出作品の作者が在タイ中に全員で描いた共同作品も展示された。来場者からは、子供達の豊かな感性が感じ取ることができると好評であった。タイ国内の新聞、TV等にも取り上げられ、日本ではNHKのニュースにて紹介される。





「日泰親善文化交流きものフェスティバル」

主催 NPO法人日本礼美協会
 実施場所 バンコク
 実施時期 2007年11月22日～11月26日

今年創立35周年を迎えたNPO法人日本礼美協会・日本和装学園は、11月23日、タイ国バンコク・センターワールド・ボールルームに於いて日本とタイの修好120周年と、プミポン国王陛下御生誕80歳祝賀記念事業「日泰親善文化交流きものフェスティバル」を開催し大成功をおさめた。同プロジェクトの収益金はタイのHIV母子感染予防プロジェクトに寄付された。

フェスティバル当日は皇太子妃ソムサワリー陛下御臨席のもと、在タイ日本国特命全権大使・小林秀明氏をはじめ日タイの要人が多数ご観覧された。日本和装学園のメンバー総勢70名での日本文花の紹介「きものショー」を公演。400名の観客より絶賛を受ける。日本の四季・風習と民族衣装「きもの」の関わりをスクリーンに映写し、雅楽から現代まで幅広い音楽にあわせて時代衣装、目隠し着付けを披露。現地タイの女性20名による浴衣モデルが見せる笑顔に開場は歓声と拍手が沸き起こり、まさに日タイ融合のハイライトシーンは日本のメディアにも届けられ、現地マスコミにも大きく取り上げられた。



虹の舞 PART10 羽衣伝説 二都物語 バンコク公演

主催 NPO法人日本・アジア芸術協会
 共催 タイ王国文化省芸術局
 実施場所 スパンブリ新国立劇場
 実施時期 2007年9月22日

1986年、日タイ芸術協会として設立以来、主にタイ舞踊を通じて新しい舞踊芸術の発展及び両国の友好促進の一翼を担うべく活動してきた。創設当初よりアジアに舞踊交流の輪を広げて行きたいと願い、1997年に主催した『アセアン設立30周年記念東南アジア10カ国及び日本合同舞踊公演「虹の舞・特別公演」』より日本・アジア芸術協会と改名し、アジアの舞踊家との交流活動を開始した。

現在は各アジアの舞踊公演プロデュース及び日本とアジア舞踊家との共同制作やタイ舞踊公演の企画、出演、ワークショップ、イベントへの参加、タイ舞踊についての講演会、講習会、アジア舞踊の振付、演出などを手掛ける。

「虹の舞」は、1987年に前身ともいべき日タイ合同制作「日タイ修好百周年記念公演「マノラ」」の講演後、1992年に第1回の日タイ合同制作「シリントン王女殿下誕生記念公演「虹の舞・パート1」」から本格的にスタートした。

今回日タイ修好120周年記念にあたり「虹の舞 PART10 羽衣伝説 二都物語」を公演した。『住む国は違っても見つめる星は一つ』をテーマに古くからアジア各国に伝わる羽衣伝説を日本とタイの代表的な舞踊劇で構成。両国の著名な舞踊家による演技はすばらしく、非常に多くの観客に感動を与えた。



心 & Love

主催 ボランティアグループ新原
 実施場所 兵庫、バンコク
 実施時期 2007年8月6日～8月22日、2007年11月15日～12月4日

タイを訪れた際に現地の人々の優しさに触れたのがきっかけで、日タイの友好に寄与する活動を始める。歌やギター、ピアノなどの心優しい演奏で、友好の輪を広げた。



ナコーン・シー・タマラト 歓迎式典芸能披露

主催 小松空港協議会
 実施場所 タイ
 実施時期 2007年10月22日

石川県とナコーン・シー・タマラト県民の交流を目的に企画。当日は静岡県訪問団も加え日本から約100人の参加者があった。歓迎式典ではタイ側の舞踊劇の上演、石川県泉原社中のメンバーらによる津軽三味線、日本舞踊、タイ側の日本舞踊の披露などが行われた。式典は全員の盆踊りで締めくくられた。

